

株式会社 エジソンクラブ

低学年ブームは一五年周期
今回は大手の参入が特徴

「塾の低学年ブームは一五年周期でやってくる。今は、この数年続いたブームの終息期にあたる。一五年前のブームと今回のブームの違いは、今回に関しては大手の参入が目立ったこと」とエジソンクラブ代表 新村一臣氏は言う。

家庭の子息を集め、募集活動をしなくても常時100名を超える生徒があるという。

幼児から小学校六年生までの、算数を中心とした教材を販売している教材会社だ。現在は全国で約一、八〇〇教室との取引がある。地域密着型の優良個人塾が九五%を占める。うまくいっている教室は、年中、年長の頃から教育熱心なご



同社の主力商品『練習帳シリーズ』。積木と図形パズルには、『つみきノート』『パズルノート』が対応している。

算数学習の底上げは「基礎」のマスター

エジソンクラブはもともと1967年に学習・珠算総合教室として始まった。そろばんという技能だけではなく、算数の基礎・基本を身につけるためのオリジナル教材『れんしゅうちょう』を開発した。

公文式の教室が全国に勢力を拡大し、いわゆる「そろばん塾」が生徒数を減らしていく傾向にあった1983年には、新村教材研究社を設立し、全国のそろばん塾向けに『れんしゅうちょう』の販売を開始。約八〇〇の教室に導入された。

その後、地域密着型の個人塾からも同社の教材が評価を受ける。営業力強化のため、2000年に販売会社エジソンクラブを設立したのだ。

「算数の学習開始時に必要な基礎と基本がある。基本とはいわゆる単純な計算能力のことを指す。基礎とは、算数のことを指す。小学校一年生の教科書の前半は、ほとんど計算は出てこない。大きい、小さい、増える、減るなどの、算数のことを学ぶことから始めるのだ。

学習指導要領を見れば、算数のことばは約二〇〇あることがわかる。これは尋常小学校の教科書でも同じ。基本の前にはしっかりと基礎の概念を身につけておかないと、高学年になって文章題が増えたとときにつまづいてしまう。しかし、そのことは一般にはあまり認

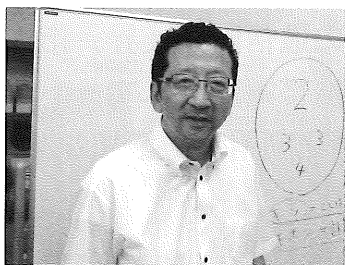
知られていない。

年中、年長くらいの年齢のうち、計算をやらせるのではなく、算数のことばをしつかり学ばせるべき。それが日本全体の算数の学力の底上げにつながる」と新村氏は主張する。また、「代数的な計算をたくさんやらせる教材はたくさんあるが、図形を使った

個人塾の集客支援も業務の一部

幾何的な算数をステップアップ方式でカリキュラム化した教材はほかにはない。三〇年前に理学博士小林茂広氏が開発したメソッドをもとにしている」と新村氏。

同社は一〇年ほど前から、個人



代表の新村一臣氏

企業データ

株式会社 エジソンクラブ

代表者名：新村一臣

代表者役職：社長

本社所在地：東京都板橋区徳丸5-5-16

電話：03-5383-5415

FAX：03-5383-5039

URL：http://www.ejisonclub.co.jp

設立：2000年

資本金：300万円

従業員数：4名

開発会社：株式会社新村教育研究所(教材開発会社)

2012年夏から フランチャイズ展開開始

そろばん塾、個人学習塾、さらに同社は取引先を拡大している。七年ほど前からは、ヤフーショッピングで個人消費者向けに教材の市販をしている。

2012年度からは板橋区教

フランチャイズ教室の契約の内容

初期費用	加盟金	10万円
	導入研修費	5万円
	導入教材費	10万円
	初回生徒募集広告作成費	5万円
月々ロイヤリティ		30%

育委員会への教材提供も始めた。同社の教材をカスタマイズし、特別支援学級用の教材を開発したのだ。

今年8月からは、個人宅での開業が可能なフランチャイズ教室の展開を始めた。フランチャイズ教室の契約形式は左記の通り。

そして塾には、個人フランチャイズ教室のオーナーを束ねる地域代理店の役割を担ってもらう仕組みを考えている。個人フランチャイズ教室からのロイヤリティが、地域代理店の活動費に充てられる。